

様式第7号(第7条関係)

公の施設事業報告書

令和7年5月30日

下妻市長 様

所在地 茨城県下妻市小島925-6

名称 有限会社スズラン・ロード

代表者氏名 代表取締役 生井 浩司

電話番号 0296-43-6435

下妻市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例第11条の規定により、次のとおり令和6年度事業報告書を提出します。

1 公の施設の名称

ビアスパークしもつま（農産物加工施設・ふれあい体験農園等）

2 管理業務の実施状況

別紙のとおり

3 利用状況及び利用拒否等の件数・理由

別紙のとおり

4 使用料又は利用料金の収入実績

別紙のとおり

5 管理経費の収支状況

別紙のとおり

2 管理業務の実施状況

【農産物加工施設の管理運営（工房 We mam）】

農産物加工施設「工房 We mam」において、規格外農産物などの地域資源を積極的に活用した高付加価値製品の開発を行い、地域の活性化や生産者の収入増、加えてふるさと納税返礼品による下妻市の農産物 PR と寄付額の増加に寄与するために、地域の生産者と連携を取りながら業務を推進してまいりました。

農産物加工施設に導入した最新鋭の設備や弊社独自のノウハウを活かし、規格外農産物を活用したコストパフォーマンスの良い製品を製造販売することで、今まで廃棄されていた農産物を生産者から購入することが可能になりました。

また、今まで活用されていなかった農園の柚子、梅、栗、ブルーベリーなども柚子胡椒やジェラートなど余すことなく使用して製品を開発しました。

令和6年度のふるさと納税寄付額が、工房 We mam 関連の商品（農産物返礼品を含む）で1億円を超える事ができました。

今後、更に貢献できるように業務に取り組んでいきます。

◇課題と改善点◇

- ① ふるさと納税返礼品の開発製造においては、繁忙期と閑散期の波が大きく、時期に合わせた人員の確保と調整に苦慮しました。この波を小さく抑えることが課題であり、閑散期にどのような業務を実施するかを検討する必要があると考えます。
- ② 加工前の農産物を保管するためのスペース（冷蔵・冷凍機能も含む）に限りがあり、農産物の取扱い量を制限している状況が2つ目の課題です。特に冷凍スペースを増やすことができれば農産物の取扱い量を増やす事ができ、加工品製造量の増加が見込めるため、今以上にふるさと納税の寄付額を増やす事が可能になると考えます。
- ③ 新たな製品を開発し製造量を増やしていくためには、今以上に生産者とのネットワークを広げる必要があります。取り組みに賛同し協力してくれる生産者を探していくことが重要だと考えます。

【ふれあい体験農園の管理運営】

ふれあい体験農園の管理運営にあたっては、地元農業法人の協力のもと事業を実施しております。

令和6年度は、収穫体験イベントとして夏季に「夏野菜の収穫体験」、冬季に「サツマイモの収穫体験」の計2回開催しました。

(1) 夏季イベント「夏野菜の収穫体験」

実施時期：令和6年8月

内 容：以下のとおり

ふれあい体験農園においてトウモロコシを中心とした夏野菜の収穫体験イベントを開催しました。計29名が参加し、収穫できた農産物は「トウモロコシ」「ブルーベリー」「キュウリ」「トマト」「ミニトマト」「ネギ」「ナス」「シシトウ」「オクラ」「カボチャ」の計10種でした。

かき氷とポップコーンを提供し、収穫体験の後にも利用者に楽しんでもいただけるイベントとなるよう工夫しました。下妻地域ふるさと交流推進協議会から大型の回転釜を提供いただき、収穫したトウモロコシをその場で茹でて食べられる企画を共同開催しました。

(2) 冬季イベント「サツマイモの収穫体験」

実施時期：令和6年11月

内 容：以下のとおり

ふれあい体験農園においてサツマイモの収穫体験イベントを開催しました。計44名が参加し、「サツマイモ（紅はるか）」の収穫体験を行っていただきました。その後、参加者が自主的に開催したバーベキューにおいて、工房 Wemam で製造しているジェラート[焼き芋][さしま茶]を提供し、農産物加工施設のPR活動も行いました。

◇課題と改善点◇

- ① イベント実施時期をあらかじめ決めて栽培を行うため、気候に左右されるなかで農産物の収穫適期をイベント当日に合わせることに非常に苦戦しました。来年度は作付時期をずらす等の対策を行い、イベント当日に必要な収量を確保できるよう努めます。
- ② 農園の水捌けが悪く作物がうまく育たない範囲があり、想定した収量を確保できないことがありました。管理していくなかで農園の特性を把握していくとともに、土壌改良も必要であると考えます。
- ③ カラスの被害が想像以上に多かったため、鳥害対策を講じる必要があります。

④ 農園管理棟及び農機具庫が平成 27 年度の水害で被災したままとなっており、電気、水道及び農作業者のスペース（休憩所及び作業場）を確保する必要があります。特に夏場においては、猛暑のなか作業をする障がい者のためにも、休憩スペースの確保が喫緊の課題となっております。

【視察及び研修等】

農産物加工施設における工房 We mam の取り組みや「捨てないプロジェクト」について PR するため、視察研修の受入れや講習会を開催しました。

全国的に見ても本取り組みは先進的なものであり、「少量多品目を製造できる施設」「ふるさと納税事業との連携」「生産者の所得向上」「SDGs の取り組み」を多方面に PR することができました。

(1) 視察研修の受入れ

- ・他自治体（関連する団体を含む） 20 件（参加者 92 人）
- ・市町村議会（関連する団体を含む） 4 件（参加者 51 人）
- ・民間企業 5 件（参加者 12 人）

(2) 講習会の開催（出張講習）

- ・捨てないプロジェクトセミナー 5 件
- ・SDGs 講習会 2 件

◇課題と改善点◇

今後も継続して対応するとともに、市内の小中高生向けに SDGs やふるさと納税に関する講習会を企画し、取り組みの認知度向上に努めてまいります。

3 利用状況及び利用拒否などの件数・理由

(1)利用状況

視察研修受入 29 件（利用者 155 人）

収穫体験受入 2 件（利用者 73 人）

(2)利用拒否

0 件

4 使用料または利用料金の収入実績

なし

5 管理経費の収支状況

公の施設に係る収支状況報告書（令和6年度）

（単位：円）

	科目	金額
収 入	売上高	68,139,896
	指定管理料	3,400,000
	[収入合計]	71,539,896
支 出	期首棚卸高	3,004,120
	仕入高	56,707,533
	期末棚卸高	5,970,412
	売上原価	53,741,241
	（売上総利益）	17,798,655
	人件費	10,884,947
	旅費交通費	38,281
	広告宣伝費	60,833
	発送配達費	618,301
	減価償却費	1,187,764
	地代家賃	0
	修繕費	149,098
	事務用消耗品費	17,466
	通信交通費	154,691
	水道光熱費	765,199
	車両燃料費	164,676
	支払手数料	52,260
	租税公課	103,410
	寄付金	0
	接待交際費	32,412
	支払保険料	48,460
	備品消耗品費	286,371
	管理諸費	2,653,773
	雑費	21,611
	一般管理費	6,354,606
	販売費及び一般管理費	17,239,553
	[支出合計]	70,980,794
収支		559,102